

## シンポジウム開催にあたって

### NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会の前身の任意団体「障害者の職場参加を考える会」が、さまざまな団体、個人により結成されたのは、2000年でした。1998年知的障害者の雇用義務化が行われており、2001年には厚生省と労働省の合体が予定されていました。こうした状況の下で、当会の「職場参加」とは福祉・医療の対象とされたり、ひきこもっている人も、雇用の対象外とせず、さまざまな就労やアルバイト、実習、体験などなんらかの形で地域の職場に入ってゆこうという内容であり、必然的に身近な地域の自治体の施策やその職場が重要な位置にあると考えていました。

越谷市や埼玉県との関わりや協議の中から、2004年に当会を設立し、自主事業としての職場参加ビューロー・世一緒を開所し、2005年に越谷市障害者就労支援センターを受託しました。以後10年間、この二つの事業を車の両輪として、職場参加を基本とした就労支援を進めてきました。

この10年間に、一方では企業の雇用率情報公開、他方では障害者雇用促進法改正による精神障害者のみなし雇用や短時間雇用のカウント、特例子会社制度改正、在宅就業支援制度等により、大・中企業を対象に障害者雇用が進みました。また、就労継続支援A型、B型、就労移行支援等の障害福祉サービスへの参入が自由化され、とりわけA型利用者の急増は、毎年6月1日に報道発表される障害者雇用状況集計結果にも少なからず反映されるほどの規模になるとともに、「悪しきA型」に対する行政指導も始まりました。

さらに、発達障害者支援法、そして生活困窮者自立支援法の枠組みでの就労支援制度もスタートしています。

就労支援センター10年目は、県雇用サポートセンターの職場開拓や世一緒の仕事発見ミッションと連携し、過去最多の就労実績を達成しながら、当会は受託を終わったわけですが、その背景には今後支援が必要な人々がさらに増えてゆく事態への効率的な対応を探ろうとする自治体内部の議論があったと思われます。受託者交代により、広域の中ポツセンターにはない市町村ならではの地の利を生かした動きは難しくなりました。

当会は2011年にワーカーズコープやワーコレと共に仕事おこし懇談会 in こしがやを立ち上げ、世一緒でのピアサポート活動を基に、地域のさまざまな人々が互いにピアとなる関係を拓くべく、越谷水辺の市、2016年のLunch Café どっこいしょなどの協働作業をしてきました。また、日野・やまぼうし等の農ある街づくりをはじめ、障害者が他の住民とともにまちづくりの担い手として共に働く他地域の活動と交流を重ねてきました。

以上を踏まえ、当会は今年度、うんとこしょ・共に生きる街の介護人養成講座での生活クラブ地域協議会との連携を機に、地域で共に働く（職場参加）活動を基本とした就労移行支援事業創業の準備作業をスタートさせます。この事業を足場に、地域の工場や店等の職場への就労を進めるとともに、福祉施設等に足を置きつつ地域の職場に短時間の就労をする働き方も進めます。支援により分け隔てられる状況を変え、共に生きるための支援に転換するために、地域で活動するみなさんやと自治体等と連帯して歩みたいのです。